



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	学会略年表
Citation	基督教学, 27, 43-54
Issue Date	1992-07-05
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/46512
Type	other
File Information	27_43-54.pdf



学会略年表

一九六二年 学会設立總會（六月十六日）

初代会長として中川秀恭氏選出

第一回大会研究発表会（六月十七日 於・北海道大文学部）

一、トインビーの宗教問題の理解

北海道学芸大旭川分校 石沢 澈

二、伝道と社会層 — 教会の社会的存在に関する一考察 —

酪農学園大 佐々木 悟 史

三、宗教改革と近代文化の問題

北海道学芸大札幌分校 辻村 正 吾

四、ルター主義と国家権力

北海道大 成瀬 治

五、エリコとシケム

北星学園大 山崎 保 典

六、

帯広畜産大 三原 武 夫

七、使徒教父における聖餐の問題

北星学園大 加藤 邦 雄

八、キリスト教一致問題

札幌カトリック北一条教会 長坂 親 秀

九、ダビデ王の晩年に関する一史料について

北海道大 宇野 光 雄

設立記念公開講演会（六月十六日 於・北海道大農学部）

「教会再一致の問題について」

藤大、天使短大講師 浅井 正 三

「教会史のイデオと歴史神学の問題について」

日本学士院会員 石原 謙

一九六三年

日本基督教学会北海道支部として一括加入決議

第二回大会研究発表会（六月二十九日 於・北星学園大）

一、バターフィールドの歴史と摂理思想

北海道学芸大旭川分校 石沢 澈

二、マルコ伝における歴史理解 — J・M・ロビンソンの所説をめぐって —

北海道大大学院 土屋 博

- 三、キルケゴールの宗教性AからBへ——逆説の教理を主として—— 北海道大大学院 渡部 光男
 四、ヘルマスの牧者に於ける母なる教会 北星学園大 加藤 邦雄
 五、週の祭の救済史的意義 北星学園大 山崎 保興

秋季公開講演会（十月二日 於・北海道大農学部）

「キリスト教と共産主義」

チエコスロバキア・プラハコメニウス神学校長 T・L・ロマドカ

一九六四年 第三回大会研究発表会（六月二十七日 於・藤学園大）

- 一、カントの宗教論について 北海道大大学院 岩谷 日出夫
 二、聖ボナベントウラ一考 旭川高専 山崎 忠
 三、イエスの黙示的説教について 北海道大大学院 土屋 博
 四、偽ディオニシオス・アレオパギタの神秘神学について 室蘭工大 大出 哲
 五、欧米的キリスト教の歴史的性情と我々の課題 北海道学芸大旭川分校 石沢 澈

秋季公開公演会（九月五日 於・北海道大農学部）

「日本人の宗教心とキリスト教」

上智大教授 H・デュモリン

一九六五年 第四回大会研究発表会（六月二十六日 於・北海道学芸大札幌分校）

- 一、ハイデッガーに於ける「不安」の概念について 北海道大 萩山 深良
 二、デンマークに於ける信仰覚醒運動とキルケゴール 酪農学園大 渡部 光男
 三、偽ディオニシウス・アレオパギタの神秘神学第一章の解釈の変遷について 室蘭工大 大出 哲

四、エキクメニズムの憲章について 藤女子大 浅井 正三

五、初代教父における「創造」の問題 北星学園大 加藤 邦雄

秋季公開講演会（十月九日 於・北海道学芸大旭川分校）

「御言葉とキリスト」

聖ベネディクト会修道院 古田 暁

「キリスト教的人間観」

北海道大教授 中川 秀恭

一九六六年 会誌『基督教』発行開始

第五回大会研究発表会（七月十八日 於・北星学園大）

一、フランツ・フォン・バーダー研究の試み

二、ルターの聖餐論における犠牲 ―典礼史的観点から―

三、現代経済社会とキリスト教 ―主として資本主義の歴史的分析を中心に―

北海道学芸大旭川分校

北星学園大 加藤 邦雄

四、ウルガタを中心とした聖書訳語上の一問題点

五、コロサイにおける異端について

「第二ヴァチカン公会議に於ける人間像」

「宗教的実存の問題点とキリスト教の理解」

一九六七年 第六回大会研究発表会（七月十日 於・酪農学園大）

一、批判哲学における「信仰」と「自律」

二、キェルケゴールの「後書」第一部研究

三、聖ヴィクトールのフーゴーの聖書観

四、復讐律の倫理性

五、ジャック・マリタンの芸術論 ―スコラ哲学内における美学への試み―

月寒カトリック教会

北星学園大 高岡 尚雄

公開講演会（七月十三日 於・札幌北一条教会）

「戦争・平和・キリスト者」

エール大学名誉教授 R・H・ペイントン
(通訳) 中川 秀恭

一九六八年 第七回大会研究発表会（七月八日 於・北海道大）

一、キエルケゴールの「均衡」に於ける美学的段階

二、ジャック・マリタンの芸術論中の宗教芸術概念について

三、クリスチャン・パソンナリティ論確立への一考察

四、フォーサイス・ルネッサンスについて

五、マタイ福音書の奇跡物語

六、「呪いの律法」の倫理性

公開講演会（十月十五日 於・カトリック北見学生センター）

「現代の教育——最近の欧州事情を紹介しながら——」

「現代の人間と宗教」

カトリック司祭
北海道教育大学長 吉村 新一郎
中川 秀恭

一九六九年 第八回大会研究発表会（七月十四日 於・北星学園女子短期大）

一、十戒の倫理性 —特に第二戒の問題をめぐって—

二、後期ユダヤ教における人間観の一問題

三、「真珠の歌」の宗教史的位位置 —G・クイスベル説をめぐって—

四、十九世紀思想とキエルケゴール

五、近代ユニテリアリズムについて

六、クリスチャン・パソンナリティ論形成への実証的研究 —学校集団における調査報告—

北星学園大 山崎 保興
北星学園大 加藤 邦雄
北海道大大学院 滝沢 武人
酪農学園大 渡部 光男
北星学園女子短大 大山 綱夫

七、最近三十年間の基督教教学の新展開

日本基督教教育研究所 中村 陽三
北海道教育大旭川分校 石沢 澈

一九七〇年 第九回大会研究発表会（七月十三日 於・藤女子大）

1' W. Monselewski: Der barnherzige Samariter—Eine auslegungsgeschichtliche

Untersuchung zu Lukas 10,25-37 にてこへ

北星学園女子短大 三枝 礼三

二、「真珠の歌」の平行記事

北海道大大学院 滝沢 武人

三、エイレーナイオスの救済史観

北星学園大 加藤 邦雄

- 四、理知的直覚主義粗描
- 五、キエルケゴールにおける関係の弁証法
- 六、編集史的方法の射程

公開講演会（十月二十日 於・酪農学園大）

「宗教と歴史」

「法思想に於ける基督教の影響」

一九七二年 第十回大会研究発表会（七月十二日 於・北星学園大）

一、〈トマス詩篇〉について

二、キエルケゴールに於ける第二倫理学の問題

三、賀川豊彦に於ける終末思想

四、エレミア篇第二章の Covenant-Rib の様式史研究

日本基督教学会第十九回大会、北海道大にて開催（九月九・十日）

一九七二年 第二代会長として秋田稔氏選出

第十一回大会研究発表会（七月十日 於・北海道大）

一、イエス伝承と黙示文字

二、使徒教父における *altheia* について

三、信仰の一致点を求めて——使徒信条・その史的考察——

四、ヒュウム『対話』の解釈について

五、M・ウェバーにおける「カリスマ」の概念

談話会（十月三十日 於・北海道大）

東京大教授・前田護郎氏の発題（テーマ『キリスト教学と諸学をめぐって』）の後、同氏を囲んで歓談

一九七三年 第十二回大会研究発表会（七月十六日 於・酪農学園大）

一、〈アダムの黙示録〉について

北海道大 植木幹雄

酪農学園大 渡部光男

北海道大 土屋博

北海道大助教授 宇野光雄

北海道教育大旭川分校教授 高坂直之

北海道大学院 滝沢武人

酪農学園大 渡部光男

北星学園大 加藤邦雄

酪農学園大 菅沼英二

北海道大 土屋博

野幌教会 加藤邦雄

藤学園 牧野玲子

北海道大 植木幹雄

北海道大 白井暢明

北海道大 滝沢武人

- 二、エレミヤ書における荒野モチーフの伝承史研究
 三、ルネッサンスの社会教説・ヴィヴエスの「救貧論」
 四、学生・生徒の宗教性の成長に対する実証的研究
 五、「理解」ということ
- カトリック司祭 菅沼英二
 日本基督教教育研究所 荒木関巧
 北星学園大 中村陽三
 雨貝行麿

公開講演会（十一月十日 於・室蘭カトリック女子高）

札幌カトリック・センター 浅井正三
 北星学園大学学長 秋田稔

「現代人の祈り」
 「聖書の人間観」

一九七四年 第十三回大会研究発表会（七月十五日 於・藤女子大）

- 一、ジョン・ミルトンにおける宗教的寛容について
 二、ウエーバー理論とピューリタン
 三、西独エヴァンゲリッツシェ・アカデミー運動の歴史的役割について
 四、ローマ書二文書説の反論への批判
 五、バルトにおける歴史理解とキリスト論
- 酪農学園大 井上昌保
 北星短大 大山綱夫
 酪農学園大 山下勝
 日本基督教会旭川教会 木下順治
 北海道大学院 宇都宮輝夫
 関根正雄

「ヘブライ思想の特質」

一九七五年 第十四回大会研究発表会（七月十四日 於・北星学園女子短大）

- 一、キリスト論
 二、アメリカにおけるヴォランティアリズムについて
 三、キエルケゴールに於ける「建徳」の概念
 四、大正期における北海道キリスト教史への若干の考察
- 札幌グリーン病院ケースワーカー 荒木関巧
 北星学園女子短大 大山綱夫
 酪農学園大 渡部光男
 旭川豊岡教会 福島恒雄

一九七六年 第三代会長として浅井正三氏選出
 第十五回大会研究発表会（七月十二日 於・北星学園大）

- 一、『ローマ書講解』におけるバルトの解釈学
 北海道大 宇都宮輝夫

二、神学の主題に関して ―神の問題―

三、青年期における宗教意識に関する実証的研究

四、ガラテヤ書に関するパウロのテクノロジーについて

五、イスラエルにおける王権 ―特に詩篇二篇と一〇一篇との関連で―

北星学園大 雨 貝 行 麿

日本私学教育研究所研究員 中 村 陽 三

旭川教会 木 下 順 治

公開講演会（十一月六日 於・旭川カトリック教会）

「聖書考古学と現代の課題 ―イスラエルから帰って―」

北星学園大教授 山 崎 保 興

一九七七年 第十六回大会研究発表会（七月十一日 於・北海道大）

一、福音書文学と書簡体文学

北海道大 土 屋 博

二、少年期の宗教意識に関する実証的比較研究

北星学園女子高 中 村 陽 三

三、トマス・アキナスにおける個別物認識についての一考察

専修北海道短大 高 岡 尚

四、フランススコ会について

藤 学 園 牧 野 玲 子

一九七八年 第十七回大会研究発表会（七月十日 於・酪農学園大）

一、ミルトンにおける教会と国家

酪農学園大 井 上 昌 保

二、一九世紀アメリカ・プロテスタンティズムについて

北星学園女子短大 大 山 綱 夫

三、ボエチウスの小著 “Quomodo substantiae in eo quod sint, bonae sint” について

小 杉 みどり

四、エルサレムの変遷

北星学園大 山 崎 保 興

五、最近における旧約聖書の契約研究の動向について

酪農学園大 菅 沼 英 二

一九七九年 第十八回大会研究発表会（七月九日 於・藤女子大）

一、古代イスラエルにおける個人と共同体

北星学園女子短大 三 枝 礼 三

二、ダビデの町再考

北星学園大 山 崎 保 興

三、パウロにおける自由

北海道大大学院 阿部 包

四、M・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の改訂について

旭川高専 白井 暢 明

五、P・テイリツヒに於ける神学的疎外概念

酪農学園大 渡部 光 男

六、G・エーベリンクの解釈学

北星学園大 雨貝 行 麿

公開講演会（十一月二十七日 於・北星学園大）

『エブラと旧約聖書』

ミシガン大学教授・元オールブライト研究所長 D・N・フリードマン

一九八〇年 第十九回大会研究発表会（七月十四日 於・北星学園大）

一、M・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の方法について

旭川高専 白井 暢 明

二、バトラーの「隣人愛について」に関して

北星学園大 植木 幹 雄

三、カルケドン公會議のキリスト論

カトリック司祭 荒木 関 巧

四、ラートの旧約神学の問題

酪農学園大 菅沼 英 二

五、律法の終わりとキリストの律法

北海道大大学院 阿部 包

六、福音書における「これらの小さい者」について

北星学園女子短大 三枝 礼 三

公開講演会（十一月一日 於・北海道大）

「ルターとメランヒトン」

東京大教授 成瀬 治

一九八一年 第二十回大会研究発表会（七月二十日 於・北星学園女子短大）

一、マルシリオ・フィチーノにおける哲学と宗教

北海道大大学院 伊藤 博 明

二、ニコラウス・クザヌスのコンペンディウムにおける「しるし」と「もの」と「そのもの」

浦河高校 野沢 建 彦

四、M・ウェーバー「世界宗教の経済倫理」のテーマについて

旭川高専 白井 暢 明

五、北海道のキリスト教会と教会建築

北海道東海大 川島 洋 一

一九八二年 第二十一回大会研究発表会（七月十九日 於・北海道大）

- 一、日本基督教団旭川六条教会の教会建築
- 二、信仰の歩み
- 三、宗教の発生次元に関する一試論
- 四、ルターとオツカム

北海道東海大研究生 長池 知己

北星学園女子短大 高橋 弘

道都短大 加藤 嘉夫

北海道大 清水 哲郎

一九八三年 第二十二回大会研究発表会（七月十八日 於・北海道東海大）

- 一、パウロにおけるユダヤ的なもの
- 二、旧約聖書における預言者と知恵
- 三、第一コリント十三章の研究
- 四、北海道のキリスト教会と教会建築
- 五、現代知識社会学の宗教論
- 六、フッサールにおける超越論的主観性の問題と現象学の可能性

北海道大大学院 阿部 包

酪農学園大 菅 沼英二

白樺養護学校 和田 博文

北海道東海大 川島 洋一

北海道大 宇都宮 輝夫

北海道教育大旭川分校 本間 謙二

旭川商業高校 加地 徹

公開講演会（十月十五日 於・北海道大）

「旧約物語書と預言者における詩篇歌の機能」

ロンドン大学名誉教授 ビーター・アクロイド

一九八四年 第二十三回大会研究発表会（七月十六日 於・酪農学園大）

- 一、ピコ・デッラ・ミランドラにおける自由意志の問題
- 二、義認と聖化―ユリウス・シュニーヴィントに学ぶ―
- 三、キエルケゴールにおける悔恨の概念
- 四、ドストエフスキーにおける〈ケノシス〉の意義について

北海道大大学院 伊藤 博明

白樺養護学校 和田 博文

酪農学園大 渡部 光男

北星学園女子短大 三枝 礼三

旭川豊岡教会 福島 恒雄

五、ある教育者の思想と足跡 ―小谷部全一郎について―

一九八五年 第二十四回大会研究発表会（七月十五日 於・藤女子大）

一、ヨハネ福音書における〈εγω εχω...〉表現の伝承と解釈についての若干の考察

北海道大 佐々木 啓

二、ニコラウス・クザーヌスにおける有限者と無限者に関する〈Non, aliud〉

浜頓別高校 野沢 建彦

三、北海道のキリスト教会と教会建築・その2

北海道東海大 川島 洋一

―道北地方の教会構築について―

課題発表

函館カリタスの園 フィリップ・グロード

一九八六年 第二十五回大会研究発表会（七月二十一日 於・北星学園大）

一、フイレンツェ・プラトン主義と「古代神学」

二、イザヤ書六一章一―三節の位置と意味をめぐって

三、初期ブルトマンの思想とその射程

懇談会（十一月五日 於・北海道大）

国際基督教大教授 古屋 安雄

一九八七年 第二十六回大会研究発表会（七月二十日 於・北星学園女子短大）

一、夜の神々―古バビロニアの晩祷

―旧約聖書における「天の万象」礼拝理解のために―

二、フェリクスの「宗教改革」はフガートが多すぎるか

北海道大大学院 菊地 純子

三、〈ただしゝ〉の言語ゲーム ―ロマ書解釈のために―

北海道大 清水 哲郎

四、ホセア書における「神の民」の問題 ―「神の子ら」をめぐって―

酪農学園大 菅沼 英二

一九八八年 第四代会長として赤城泰氏選出

第二十七回大会研究発表会（七月十八日 於・北海道大）

一、プロローグ ヨハネ黙示録における手紙の問題

二、キエルケゴールにおける懐疑の問題

三、北海道のキリスト教会と教会建築（その二）

―日本聖公会に所属する二つの教会について―

四、預言者エレミヤと申命記

五、「ダビデの町」の発掘調査（その後）

一九八九年 第二十八回大会研究発表会（七月十七日 於・北海道東海大）

一、道内における日本ナザレン教団の教会建築について

二、日本カトリック旭川五条教会の会堂とその変遷

三、神への回帰と自己放棄

―シモーヌ・ヴェイユにおける「脱創造」の概念をめぐって―

北海道大医療技術短大部

四、キリスト教徒日曜日訴訟判決について（東京地裁六一・三・二〇）

五、公共の福祉に対するキリスト教の貢献

公開講演会（十月十七日 於・北星学園大）

古代オリエントと旧約聖書

―エブラ、ウガリット文書をめぐって―

一九九〇年 第二十九回大会研究発表会（七月十六日 於・酪農学園大）

一、北海道における日本ナザレン教団の教会建築 ―立面形態について―

北海道東海大大学院

二、新約聖書ギリシヤ語考

三、エロイーズ

四、日本カトリック教会大町教会の聖堂とその変遷

―Revised English Bible 刊行にゆき―北海道学園大

北海道東海大大学院

北海道東海大

北海道大大学院 朝井 かおる

酪農学園大 渡部 光男

北海道東海大 川島 洋一

酪農学園大 菅沼 英二

北星学園大 山崎 保典

北海道東海大研究生 千里 政文

北海道東海大 川島 洋一

澤田 愛子

加地 徹

高坂 直之

ニューヨーク大学エブラ研究センター所長 C・H・ゴードン

千里 政文

田中 勇二

大道 敏子

川島 洋一

懇談会

講師

一九九一年 第三十回大会研究発表会（七月十五日 於・藤女子大）

一、マタイによる福音書4章4節についての一考察

二、神殿丘南麓発掘調査結果について

三、キリスト教教育をめぐって ― 整理のための試論 ―

シンポジウム

「北海道におけるキリスト教学」

発題者

司会

三十周年記念祝賀会（七月十五日 於・ホテル札幌会館）

講演 「新しいエートスを求めて」

会食

太平洋神学校教授 W・ヴェルナー

北海学園大 田中勇二

北星学園大 山崎保興

遺愛学院 赤城泰

留萌宮園伝道所 福島恒雄

北海道立文書館 鈴木英一

酪農学園大 菅沼英二

北海道大 土屋博

大妻女子大学長 中川秀恭